

創立142周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成27年7月7日(火)発行

苦勞が希望に変わる 誠実な努力こそ

校長 岡留 祐宏

暦の上では今月7日は小暑です。本格的な夏が始まる頃とされていますが、なかなか晴れない梅雨空です。梅雨明けを待ち遠しく思ううちに、1学期もあと2週間足らずとなりました。

学期末を迎え、子どもたちにも1学期の自己評価をしてもらいました。校訓の「やさしく」「かしこく」「たくましく」と「基礎学力」に関する26項目について、4段階で自分の姿を振り返ります。「これはできた」、「これはもう少し」というように自分の取組を振り返ることで、「自分を客観的に見る」ことや、「前向きな努力につなげる」ことを意図して行っているものです。子どもたちには、過大でも過小でもない自己評価をして、「伸びつつある自分」、「〇〇をもっと頑張ろう」「努力を続ければできそうだ」といった誠実で前向きな自己評価をしてほしいと思います。

先日、子どもたちの掃除の取組が話題になりました。黙々と掃除に取り組み、隅々まできれいにしようとする姿も多く見られます。また、ときには、作業が進まなかったり、やりやすい場所だけやって済ましているといったこともあります。

掃除は身の回りをきれいに整えるために必要であることは言うまでもありませんが、経営の神様で知られた故松下幸之助氏が、「掃除による辛抱が人を成長させる」と唱えていたことはよく知られています。「寒中での雑巾がけ、汚れたトイレの掃除は敬遠しがちです。しかし、こういうつらいことがやがて成功のもとになる。こう考えると、辛抱ができるんです。辛抱するからその仕事が身につくんです。すると、苦痛が少なくなってきます。苦勞も少ないようになります。苦勞が希望に変わってきます」。これは、松下氏29歳のときの言葉だそうです。

子どもたちに限らず、我々職員も自分の力を高める努力は口で言うほど容易ではありません。成果の上がらない日々じりじりとする思いもあります。ですが、「やがて成功のもとになる。苦勞が希望に変わる」との先達の教えをかみしめ、1学期の反省を踏まえて、誠実な努力を続けていきたいと思っています。教児ともに、1学期の努力を夏休みにも継続したいと思っています。



宇宙教室のロケット打ち上げ(土曜授業)

古市家塾 - 地域の一員として -

坂井公園を活性化する会の方から、「七夕飾りで公園を飾りたい」とのお話をいただいた。学校近くの「歴史の里：坂井公園」が、さらに多くの人に利用されるようにとのことであった。

本校のスローガンは、「楽しい学校、元気な校区、校区と共に伸びる南界小学校」である。これをいい機会にしたいと思った。本校は4年前から古市家塾の取組を通して、地域の自然、歴史、文化を体験的に学んできている。古市家塾生やその保護者、公園活性化の有志の方々が連携し、南界園の方々や俳句の会の方々から短冊寄せていただき、異なる団体同士のコラボレーションに発展した。何より、子どもたちが地域貢献の一端を担えたことは、地域の一員としての喜びを感じる機会となったことと思う。

なるほど！納得の言葉

この欄も、七夕飾りでの一コマを紹介します。公園活性化グループ代表の久保田和弘さんの開会のあいさつの中の言葉です。

「七夕は、織姫と彦星が1年に1度会える日です。今日も雨が降っていますが、雲の上の天の川は晴れているので、心配いりません。」

苦手なことや不安に思っていることについて、私たち学校の職員は、子どもたちにどんな言葉をかけたらよいか、日々考えさせられます。

雨の降る七夕は星も見えず、湿りがちになるものですが、「天の川は晴れている」の一言は、子どもたちの想像力をくすぐり、創作意欲を高めてくれる一言だと納得しました。なるほどの一言、ありがとうございます。